

FMU ダイバーシティ推進通信

第1号 2022年7月発行

令和4年4月1日付で、「男女共同参画推進本部」及び「男女共同参画支援室」は「ダイバーシティ推進本部」及び「ダイバーシティ推進室」に生まれ変わりました。本紙も次号から新名称に変更する予定ですが、今号は暫定的に仮の名称といたしました。皆様から新名称を募集いたしますので奮ってご応募ください。今後とも全教職員・学生の方々にご愛読いただければ幸いです。

ダイバーシティ推進本部長(理事長)あいさつ

ダイバーシティ推進本部長を務めます理事長兼学長 竹之下誠一です。本学においては、2010年に女性医師支援センター、2011年にキャリア・ラボ（文部科学省女性研究者研究活動支援事業）を設置し、女性医師・研究者が離職することなく仕事や研究を継続し、キャリア形成ができるように就業環境を整備いたしました。

さらに、2014年には男女共同参画を大学全体で推進するため、男女共同参画推進本部・支援室を開設いたしました。3年毎に「福島県立医科大学 男女共同参画推進行動計画」を策定し、この行動計画に基づき、研究支援員制度、就労環境整備各種セミナー等の取組を実施しております。また、この間、学内託児所「すぎのこ園」に加え、2011年病児病後児保育所「すくすく」が開所され、子を持つ教職員に現在も順調に利用されているところです。このたび、男女共同参画推進本部・支援室からダイバーシティ推進本部・推進室に体制を改め、ダイバーシティという観点から取組のさらなる充実をはかることになりました。ダイバーシティとは多様性を意味し、性別のみならず、年齢、人種、宗教、価値観、障害の有無、ライフスタイル、趣味、嗜好などさまざまな属性をもつ人の集団を指します。本学におけるダイバーシティ推進の目的は多様な価値観を認め合い、個人が尊重され、持てる個性と能力を最大限に発揮できる環境を本学の全教職員・全学生に提供することです。

結果として、ダイバーシティの推進は各個人のモチベーションを向上させるだけでなく、多様な人材の登用により、組織の生産性を向上することが期待されます。人材を適材適所に配置し、ひとりひとりの能力を最大限に発揮してもらうことが、多様な人材の確保、様々なアイデアの創出、離職率低下等に繋がり、大学全体の活性化をもたらすものと考えます。

今回、ダイバーシティ推進本部の中に、副本部長として事務局長、法人経営室長、推進室長、また本部員として医学部長、看護学部長、保健科学部長、総合科学教育研究センター長、附属病院長、学生部長、会津医療センター附属病院長にも入っていただきました。ダイバーシティ推進室員は各部署から選任されています。これによって、大学全体にダイバーシティ推進の意識を徹底し、実現に向けて取り組みを進めていきます。

誰もが、生き生きと働き、研究し、学ぶことができるよう、また、本学がさらなる発展を遂げるため、ダイバーシティ推進への取組に皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



竹之下 誠一理事長

ダイバーシティ推進本部・同推進室メンバー紹介

(敬称略)

【ダイバーシティ推進本部】

本部長 (理事長)	竹之下 誠一
副本部長(ダイバーシティ推進室長)	小宮 ひろみ
副本部長(法人経営室長)	藤島 初男
副本部長(事務局長)	齋野 和則
本部員 (医学部長)	藤森 敬也
本部員 (看護学部長)	坂本 祐子
本部員 (保健科学部長)	矢吹 省司
本部員(総合科学教育研究センター長)	松岡 有樹
本部員(附属病院長)	竹石 恭知
本部員(学生部長)	亀岡 弥生
本部員(会津医療センター附属病院長)	大田 雅嗣

【ダイバーシティ推進室】

室長(性差医療センター 教授)	小宮 ひろみ
室員(病態制御薬理医学講座 准教授)	前島 裕子
室員(衛生学・予防医学講座 准教授)	各務 竹康
室員(細胞統合生理学講座 講師)	小林 大輔
室員(麻酔科学講座 助手)	花山 千恵
室員(看護学部生命科学部門 准教授)	古橋 知子
室員(看護学部成人・老年看護学部門 助教)	杉本 幸子
室員(保健科学部作業療法学科 講師)	石川 陽子
室員(保健科学部理学療法学科 講師)	中野渡 達哉
室員(会津医療センター耳鼻咽喉科学講座教授)	小川 洋
室員(会津医療センター血液内科学講座 助教)	助川 真純

性の多様性(LGBT等)に関する 理念と対応ガイドラインを制定

令和4年4月、男女共同参画推進本部（現 ダイバーシティ推進本部）において、「性の多様性（LGBT等）に関する理念と対応ガイドライン」を策定しました。このガイドラインは学生を対象としたものですが、各種相談窓口や関連用語も掲載していますので、ぜひご一読ください。今後は教職員対象のガイドライン策定も検討してまいります。

掲載場所：デスクネット 文書管理＞ダイバーシティ推進室

●総合相談窓口

ダイバーシティ推進室（10号館4階）

E-mail: gendeqsp@fmu.ac.jp

現在のところは学生を対象として、ガイドラインに示した内容を中心に相談を受け付けます。

相談員はプライバシーを守りますので、安心してご相談ください。個別の状況や大学側の事情によっては、希望どおりの対応ができない場合もありますが、まずはお気軽にご相談ください。

女性研究者・女性医師のキャリア形成を 考える座談会カフェを開催



6月14日に「女性研究者・女性医師のキャリア形成を考える座談会カフェ」が、これまでの各学部単位での開催に加えて、本年度から学部の枠を越えたカフェとして開催されました。

当日はWEB参加者を含め、10名が参加され、参加者からライフイベントへの対応や苦労話などについて紹介していただきました。

女性研究者・女性医師のネットワーク作りに向けて第一歩となったミーティングでした。

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 ダイバーシティ推進室

E-mail: gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel: 024-547-1657 (内線: 2807) / HP: <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>
ダイバーシティ推進室長 小宮 ひろみ/コーディネーター 橋本にしき/渡邊 賢一

本紙・新名称を募集します

本紙は3月号まで「男女共同参画通信」として32回発行いたしました。この度の室名変更に伴い、本紙の名称も変更することとしましたので、読者の皆様から新名称を募集することになりました。今後、デスクネットやメールにて募集案内いたしますので、気軽にご応募くださるようお願いいたします。募集期間に関しては7/11から7/29までといたします。

お知らせ

<<下半期研究支援員の配置要望調査>>

ライフイベント（出産・育児・介護・看護等）を抱えた教員の研究支援を行っております。つきましては、令和4年度下半期配置分の調査を行います。

支援期間 R4年10月1日～R5年3月31日

詳しくは、デスクネット掲載予定のご案内を御覧ください。

<<ダイバーシティ推進員研修会>>

■日時 令和4年7月20日（水）14:00～15:00

■場所 11号館1階 第1臨床講義室

■講師 LGBT法連合会 事務局長
神谷 悠一先生

■テーマ 「性的指向・性自認(SOGI)と大学・職場の課題について」

■対象 ダイバーシティ推進員、全教職員・学生

■申込 7月13日までにメールにてお申込みください。
(gendeqsp@fmu.ac.jp)

用語解説 『ダイバーシティ』とは

ダイバーシティは「個人の持つあらゆる属性の次元」と定義している。次元の範疇は「居住地、家族構成、習慣、所属組織、社会階級、教育、コミュニケーションスタイル、マネジメントスタイル、人種・民族、性的指向、職歴、年齢、未既婚、趣味、パーソナリティ、宗教（一部省略）などのほとんどの属性」と幅広い。

（出典）東京家政院大学紀要 第58号 2018年

『大学における「ダイバーシティ&インクルージョン教育」の重要性』から抜粋